

# 1 県下市町村の人口及び面積

市町村名	令和7年4月1日現在				平成27年～令和2年の増減(国勢調査)				人口密度 (人/kmf) R7. 4. 1	面積 kmf R6. 10. 1
	世帯数	人口総数	男	女	世帯数		人口			
					増減数	増減率	増減数	増減率		
全 県	4,422,702	9,213,059	4,564,349	4,648,709	244,429	6.1	111,124	1.2	3,812	2,416.55
市 部 計	4,297,905	8,932,411	4,426,385	4,506,025	239,478	6.2	115,492	1.3	4,934	1,810.25
郡 部 計	124,797	280,648	137,964	142,684	4,951	4.3	△ 4,368	△ 1.5	463	606.31
横 浜 市	1,827,978	3,769,150	1,857,386	1,911,764	107,463	6.5	52,647	1.4	8,601	438.23
川 崎 市	790,411	1,553,920	781,992	771,928	55,615	8.0	63,049	4.3	10,870	142.96
相 模 原 市	350,011	722,148	359,298	362,850	21,583	6.9	4,714	0.7	2,196	328.91
横 須 賀 市	166,043	367,698	182,578	185,120	△ 273	△ 0.2	△ 18,508	△ 4.6	3,647	100.81
平 塚 市	118,794	257,818	128,707	129,111	4,794	4.5	195	0.1	3,801	67.83
鎌 倉 市	77,358	170,034	79,764	90,270	2,687	3.7	△ 309	△ 0.2	4,287	39.66
藤 沢 市	204,786	443,488	218,554	224,933	13,034	7.2	13,011	3.1	6,376	69.56
小 田 原 市	85,965	185,293	89,409	95,884	2,744	3.5	△ 5,230	△ 2.7	1,631	113.60
茅 ヶ 崎 市	108,634	244,975	118,573	126,402	4,581	4.7	3,041	1.3	6,862	35.70
逗 子 市	25,048	55,136	25,697	29,439	766	3.2	△ 365	△ 0.6	3,191	17.28
三 浦 市	17,064	39,141	18,719	20,422	△ 357	△ 2.0	△ 3,220	△ 7.1	1,221	32.05
秦 野 市	73,799	160,069	80,822	79,247	700	1.0	△ 4,939	△ 3.0	1,543	103.76
厚 木 市	106,679	223,014	114,991	108,023	4,536	4.7	△ 2,009	△ 0.9	2,377	93.83
大 和 市	117,638	244,280	121,390	122,890	8,499	8.3	6,247	2.7	9,017	27.09
伊 勢 原 市	47,876	101,057	51,192	49,865	2,273	5.3	266	0.3	1,819	55.56
海 老 名 市	63,613	141,488	70,975	70,513	4,923	9.2	6,326	4.9	5,321	26.59
座 間 市	63,079	131,893	65,434	66,459	4,347	7.8	3,588	2.8	7,507	17.57
南 足 柄 市	16,749	39,022	18,999	20,023	40	0.2	△ 2,465	△ 5.7	506	77.12
綾 瀬 市	36,380	82,787	41,905	40,882	1,523	4.6	△ 547	△ 0.6	3,739	22.14
葉 山 町	13,007	30,454	14,251	16,203	352	2.8	△ 431	△ 1.3	1,787	17.04
寒 川 町	20,859	48,381	24,560	23,821	1,118	6.0	412	0.9	3,627	13.34
大 磯 町	13,032	30,617	14,870	15,747	427	3.5	84	0.3	1,782	17.18
二 宮 町	11,771	26,483	12,686	13,797	369	3.3	△ 814	△ 2.9	2,917	9.08
中 井 町	3,512	8,861	4,435	4,426	77	2.3	△ 379	△ 3.9	443	19.99
大 井 町	7,215	17,198	8,393	8,805	505	8.2	96	0.6	1,196	14.38
松 田 町	4,569	10,229	5,081	5,148	166	3.8	△ 335	△ 3.0	271	37.75
山 北 町	3,944	8,961	4,454	4,507	33	0.8	△ 963	△ 9.0	40	224.61
開 成 町	7,500	18,726	9,063	9,663	767	12.4	1,316	7.7	2,859	6.55
箱 根 町	6,530	10,816	5,211	5,605	272	4.5	△ 493	△ 4.2	116	92.86
真 鶴 町	2,873	6,065	2,813	3,252	△ 105	△ 3.4	△ 611	△ 8.3	860	7.05
湯 河 原 町	10,754	21,864	10,113	11,751	△ 67	△ 0.6	△ 1,600	△ 6.4	534	40.97
愛 川 町	18,091	39,154	20,568	18,586	1,032	6.4	△ 474	△ 1.2	1,142	34.28
清 川 村	1,140	2,839	1,466	1,373	5	0.4	△ 176	△ 5.5	40	71.24

- (注) 1. 平塚市、茅ヶ崎市、大磯町の面積については、一部境界未定のため、参考値を掲載しています。
2. 令和2年国勢調査結果(確定値)を基にした数値を掲載しています。
3. 神奈川県及び相模原市の増減数及び増加率の算出に当たっては東京都町田市との境域変更に伴う組替を行っています。
4. 人口総数には性別不詳を含むため、男女の合計と一致しない場合があります。

資料：文書統計課 「神奈川県人口統計調査」(神奈川県統計センター)

## 2 全国上位50都市の人口・世帯数

順位	都市別	世帯数	人口	平成27年～令和2年の人口増減 (△は減)	
				増減	増減率(%)
※1	東京都区部	5,215,850	9,733,276	460,536	5.0
2	横浜市	1,753,081	3,777,491	52,647	1.4
3	大阪市	1,469,718	2,752,412	61,227	2.3
4	名古屋	1,122,103	2,332,176	36,538	1.6
5	札幌	969,161	1,973,395	21,039	1.1
6	福岡	831,124	1,612,392	73,711	4.8
※7	川崎市	747,452	1,538,262	63,049	4.3
8	神戸	734,920	1,525,152	△ 12,120	△ 0.8
9	京都	729,524	1,463,723	△ 11,460	△ 0.8
10	さいたま	582,475	1,324,025	60,046	4.8
11	広島	555,123	1,200,754	6,720	0.6
12	仙台	525,455	1,096,704	14,545	1.3
13	千葉	447,982	974,951	3,069	0.3
14	北九州	436,245	939,029	△ 22,257	△ 2.3
15	堺	366,079	826,161	△ 13,149	△ 1.6
16	浜松	320,749	790,718	△ 7,262	△ 0.9
17	新潟	331,272	789,275	△ 20,882	△ 2.6
18	熊本	326,920	738,865	△ 1,957	△ 0.3
※19	相模原	332,770	725,493	4,714	0.7
20	岡山	327,620	724,691	5,217	0.7
21	静岡	297,421	693,389	△ 11,600	△ 1.6
22	船橋	289,916	642,907	20,017	3.2
23	川口	267,141	594,274	16,162	2.8
24	鹿児島	279,644	593,128	△ 6,686	△ 1.1
25	八王子	267,020	579,355	1,842	0.3
26	姫路	224,106	530,495	△ 5,169	△ 1.0
27	宇都宮	230,841	518,757	163	0.0
28	松山	241,234	511,192	△ 3,673	△ 0.7
29	松戸	231,195	498,232	14,752	3.1
30	市川	242,970	496,676	14,944	3.1
31	東大阪	232,303	493,940	△ 8,844	△ 1.8
32	西宮	215,651	485,587	△ 2,263	△ 0.5
33	大分	209,539	475,614	△ 2,532	△ 0.5
34	倉敷	199,082	474,592	△ 2,526	△ 0.5
35	金沢	207,520	463,254	△ 2,445	△ 0.5
36	福山	193,371	460,930	△ 3,881	△ 0.8
37	尼崎	221,404	459,593	7,030	1.6
※38	藤沢	193,204	436,905	13,011	3.1
39	町田	192,015	431,079	△ 1,270	△ 0.3
40	柏	188,022	426,468	12,514	3.0
41	豊田	176,840	422,330	△ 212	△ 0.1
42	高松	187,511	417,496	△ 3,252	△ 0.8
43	富山	171,917	413,938	△ 4,748	△ 1.1
44	長崎	187,423	409,118	△ 20,390	△ 4.7
45	岐阜	173,386	402,557	△ 4,178	△ 1.0
46	豊中	176,967	401,558	6,079	1.5
47	宮崎	184,237	401,339	201	0.1
48	枚方	172,253	397,289	△ 6,863	△ 1.7
※49	横須賀	165,473	388,078	△ 18,508	△ 4.6
50	吹田	180,099	385,567	11,099	3.0

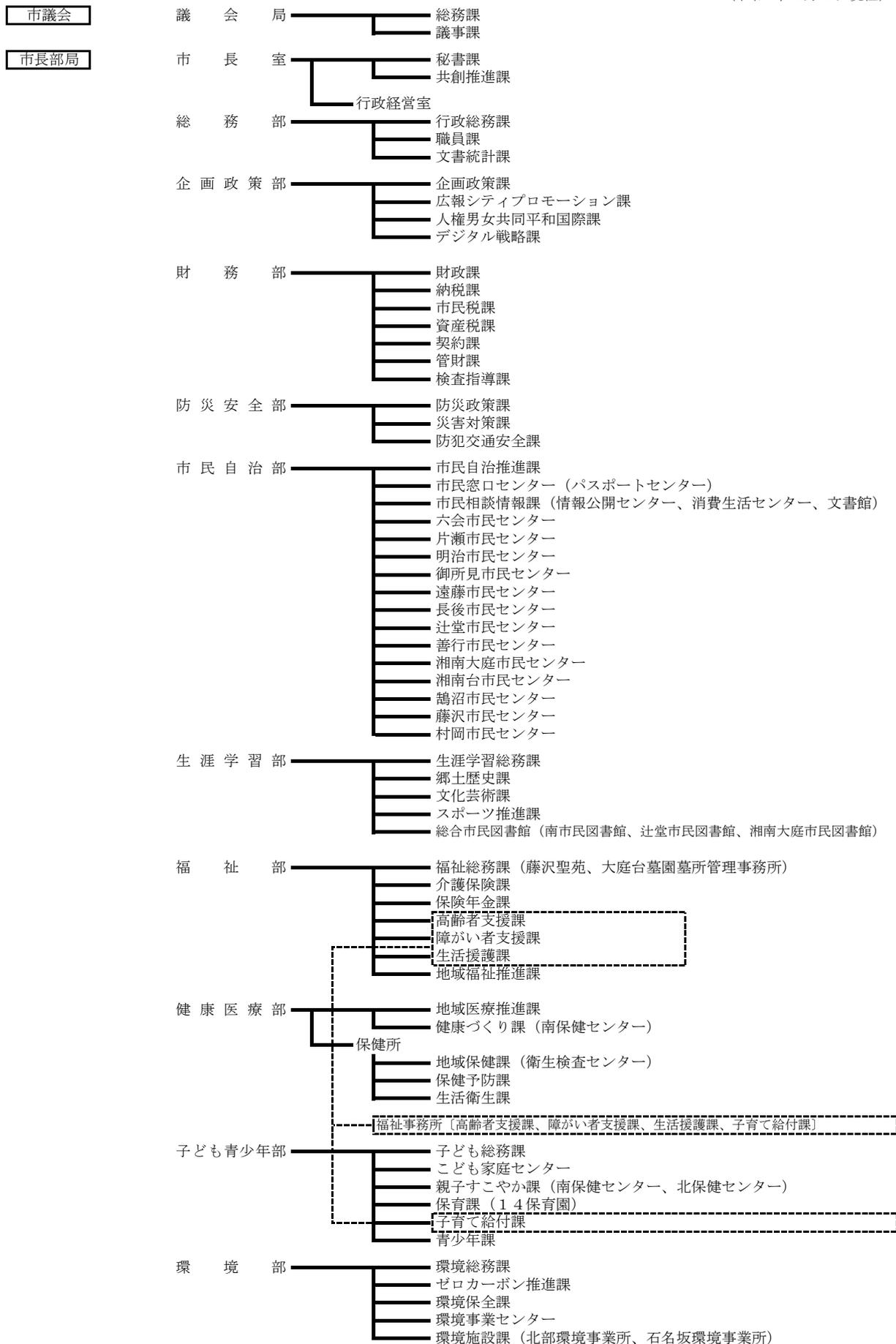
(注) 1. 令和2年国勢調査による人口の上位50都市を表章しました。 ※印は県内市です。

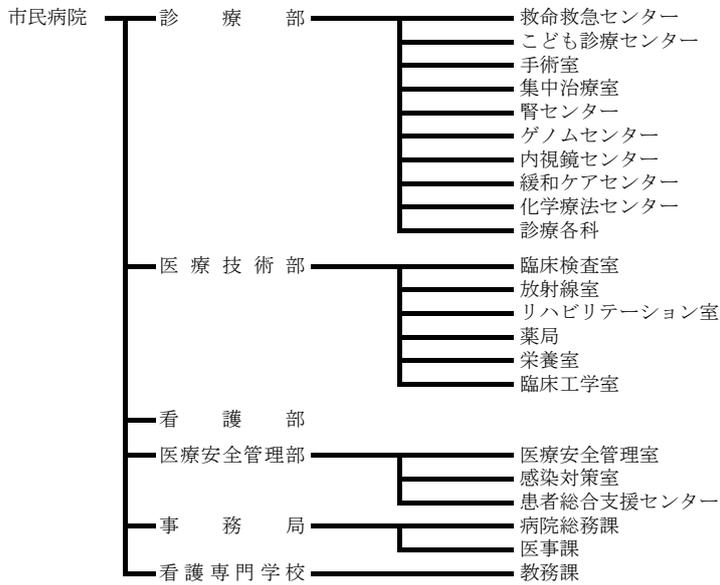
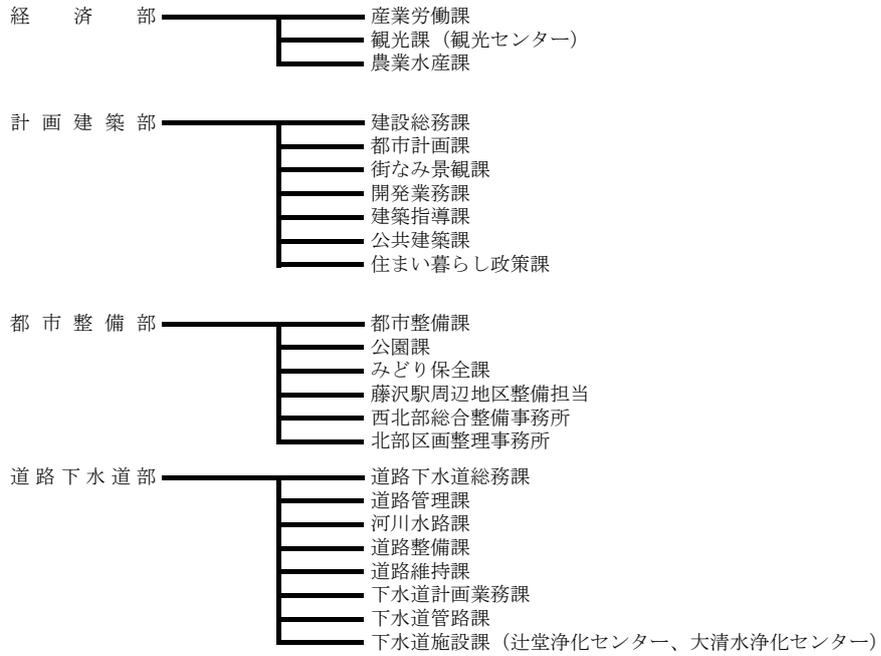
2. 増減数及び増加率の算出に当たっては令和2年10月1日現在の市区町村の境域に基づいて組替を行っています。

資料：文書統計課 「国勢調査」 (総務省)

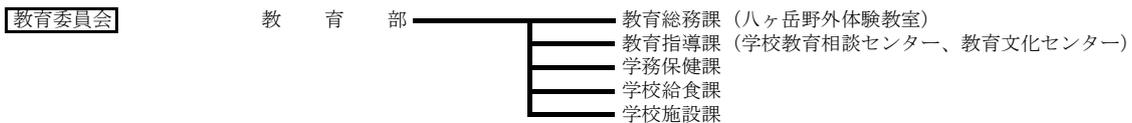
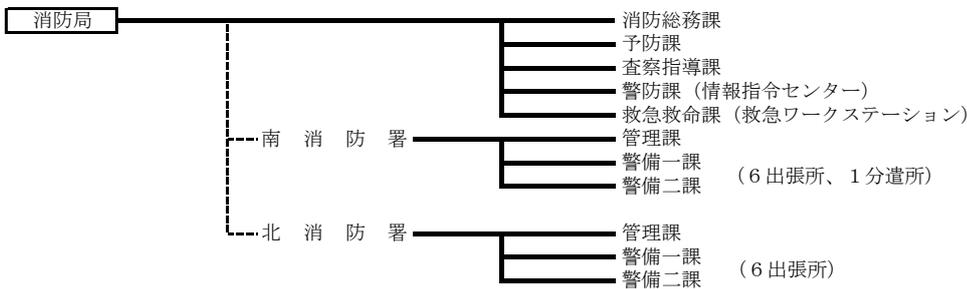
### 3 藤沢市行政組織図

(令和7年4月1日現在)





オンブズマン 事務局  
 会計管理者 会計課



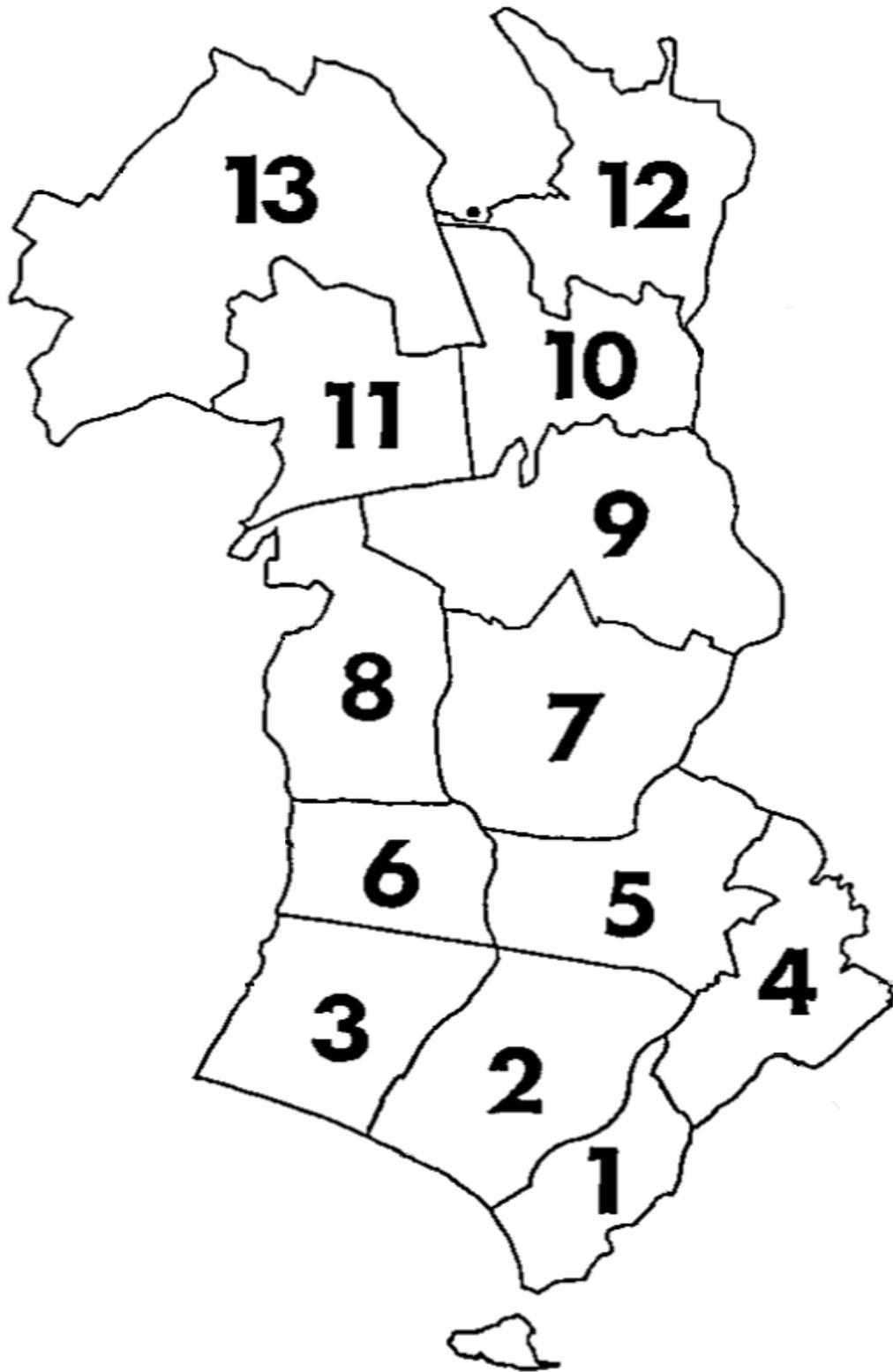
監査委員 事務局

選挙管理委員会 事務局

農業委員会 事務局

公平委員会  
 固定資産評価審査委員会

4 13地区分布图



## 5 13地区区分表

地区名	左に包含される区域	面積
1 片 瀬	片瀬1～5丁目・片瀬海岸1～3丁目・片瀬山1～5丁目・片瀬目白山・江の島1～2丁目	(3.055km <sup>2</sup> )
2 鵜 沼	南藤沢・鵜沼東・鵜沼海岸1～7丁目・鵜沼松が岡1～5丁目・鵜沼桜が岡1～4丁目・鵜沼藤が谷1～4丁目・本鵜沼1～5丁目・鵜沼花沢町・鵜沼橋1～2丁目・鵜沼石上1～3丁目・片瀬・鵜沼の一部	(5.610km <sup>2</sup> )
3 辻 堂	辻堂1～6丁目・辻堂元町1～6丁目・辻堂太平台1～2丁目・辻堂東海岸1～4丁目・辻堂西海岸1～3丁目	(4.377km <sup>2</sup> )
4 村 岡	弥勒寺・弥勒寺1～4丁目・宮前・小塚・高谷・渡内・渡内1～5丁目・柄沢・柄沢1～2丁目・村岡東1～4丁目・川名・川名1～2丁目・並木台1～2丁目	(4.058km <sup>2</sup> )
5 藤 沢	朝日町・藤沢(南)・藤沢1～5丁目・本町1～4丁目・鵜沼の一部・鵜沼神明1～5丁目・西富・西富1～2丁目・大鋸・大鋸1～3丁目・藤が岡1～3丁目	(4.746km <sup>2</sup> )
6 明 治	辻堂神台1～2丁目・辻堂新町1～4丁目・羽鳥1～5丁目・城南1～5丁目	(3.044km <sup>2</sup> )
7 善 行	藤沢(北)・善行1～7丁目・本藤沢1～7丁目・善行団地・立石1～4丁目・花の木・みその台・善行坂1～2丁目・白旗1～4丁目・大庭の一部・稲荷・稲荷1丁目・亀井野の一部・西俣野の一部・石川の一部	(6.089km <sup>2</sup> )
8 湘南大庭	大庭の一部・石川の一部・遠藤の一部	(5.007km <sup>2</sup> )
9 六 会	亀井野の一部・亀井野1～4丁目・今田の一部・円行の一部・円行1丁目の一部・石川の一部・石川1～4丁目・西俣野の一部・天神町1～3丁目・遠藤の一部	(7.190km <sup>2</sup> )
10 湘南台	今田の一部・円行の一部・円行1丁目の一部・円行2丁目・石川の一部・桐原町・湘南台1～7丁目・土棚	(4.272km <sup>2</sup> )
11 遠 藤	石川5～6丁目・石川の一部・遠藤の一部	(4.976km <sup>2</sup> )
12 長 後	長後・高倉・下土棚	(5.406km <sup>2</sup> )
13 御 所 見	用田・葛原・菖蒲沢・打戻・瀬郷・宮原	(11.730km <sup>2</sup> )

(注) 村岡地区は、平成30年11月16日公告の柄沢特定土地区画整理事業の換地処分に伴い、新しい町丁字が追加されました。

## 6 藤沢市所在の指定文化財目録

令和7年3月31日現在

指定区分	区 分	名 称	所 在 地	所有者又は管理者	指定年月日
国指定	絵 画	絹本著色後醍醐天皇御像	西富1-8-1	清 浄 光 寺	明治33. 4. 7
"	"	絹本著色一遍上人絵伝	西富1-8-1	清 浄 光 寺	昭和27. 3. 29
"	"	絹本著色一向上人像	西富1-8-1	清 浄 光 寺	昭和34. 6. 27
"	彫 刻	木造薬師如来坐像	城南4-10-35	養 命 寺	昭和 2. 4. 25
"	"	木造弁才天坐像	江の島2-3-8	江 島 神 社	令和元. 7. 23
"	書 跡	時衆過去帳	西富1-8-1	清 浄 光 寺	昭和29. 3. 20
"	"	六時居讃・安食問答	西富1-8-1	清 浄 光 寺	昭和29. 3. 20
"	考 古 資 料	壺形土器	東京国立博物館	個 人	昭和41. 6. 11
"	史 跡	藤沢敵御方供養塔	西富1-8-1	清 浄 光 寺	大正15. 10. 20
県指定	絵 画	絹本著色二河白道図	西富1-8-1	清 浄 光 寺	昭和28. 12. 22
"	"	紙本著色遊行上人縁起絵巻	西富1-8-1	清 浄 光 寺	昭和57. 2. 9
"	"	絹本著色一遍上人像	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成 7. 2. 14
"	"	紙本墨画淡彩一遍上人像	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成 7. 2. 14
"	工 芸 品	太刀 銘 肥前国佐賀住	江の島2-3-8	江 島 神 社	昭和33. 1. 14
"	"	わきざし 銘 相州住秋広		個 人	昭和33. 6. 17
"	"	清浄光寺の銅鐘	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成 2. 2. 13
"	書 跡	岩本院文書	朝日町1-1	藤 沢 市	昭和50. 2. 7
"	有形民俗文化財	藤沢の信仰用具コレクション	朝日町1-1	藤 沢 市	昭和46. 9. 17
"	"	御嶽大神の庚申塔	遠藤2539	遠 藤 御 嶽 大 神	平成18. 2. 14
"	無形民俗文化財	江の島囃子		江の島囃子連合会	平成13. 2. 13
"	"	相模のささら踊り		葛原芸能保存会 遠藤民俗芸能保存会	平成20. 2. 5
"	史 跡 名 勝	江ノ島	江の島		昭和35. 10. 4
市指定	建 造 物	江の島弁財天道標 12基	藤沢橋付近 他	藤 沢 市 他	昭和41. 1. 17
"	"	時宗板碑	西富1-9-27	長 生 院	昭和41. 1. 17
"	"	寛永19年石燈籠	長後1412	天 満 宮	昭和52. 4. 13
"	"	青銅鳥居	江の島1-3	江 島 神 社	平成 9. 2. 12
"	"	旧小池邸	新林公園内	藤 沢 市	平成11. 2. 12
"	"	旧福原家長屋門	新林公園内	藤 沢 市	平成18. 5. 24
"	"	中雀門	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成27. 10. 1
"	"	青銅製燈籠	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成27. 10. 1
"	"	本堂 附 龍図外陣天井絵、 龍図須弥壇背面板戸絵、厨 子、天保4年銘賽銭箱	片瀬3-2822	龍 口 寺	令和 3. 10. 1
"	"	山門	片瀬3-2822	龍 口 寺	令和 3. 10. 1
"	"	五重塔	片瀬3-2820-7	龍 口 寺	令和 3. 10. 1
"	絵 画	八方睨みの亀の絵	江の島2-3-8	江 島 神 社	昭和46. 7. 5
"	"	江嶋縁起	朝日町1-1	藤 沢 市	昭和59. 3. 26
"	"	絹本著色二祖他阿真教像	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成 8. 3. 1
"	"	絹本著色太空中人像	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成10. 2. 12
"	"	紙本著色江嶋縁起絵巻	江の島2-3-8	江 島 神 社	平成31. 2. 1
"	彫 刻	石造閻魔大王像	西俣野866	花 應 院	昭和41. 1. 17
"	"	木造十一面観世音菩薩立像	渡内5-1-13	慈 眼 寺	平成元. 12. 15
"	"	木造阿弥陀如来坐像	西富1-9-27	長 生 院	平成 8. 3. 1
"	"	木造虚空蔵菩薩立像	川名584	神 光 寺	平成 9. 2. 12
"	"	木造聖観音坐像	渡内3-13-1	二 伝 寺	平成10. 2. 12
"	"	木造阿弥陀如来立像	本町4-5-21	常 光 寺	平成10. 2. 12
"	"	木造地藏菩薩立像	本町4-5-21	常 光 寺	平成28. 2. 1

指定区分	区 分	名 称	所 在 地	所有者又は管理者	指定年月日
市指定	彫 刻	木造日光・月光菩薩立像	城南4-10-35	養 命 寺	平成29. 2. 1
"	"	木造十二神将立像	城南4-10-35	養 命 寺	平成30. 2. 1
"	"	木造八臂弁財天坐像 附木造十五童子立像	江の島	個 人	令和 2. 2. 1
"	"	木造妙音弁財天坐像	江の島2-3-8	江 島 神 社	令和 2. 2. 1
"	工 芸 品	羽鳥御霊神社の梵鐘	羽鳥3-15-28	御 霊 神 社	昭和41. 1. 17
"	"	遠藤宝泉寺雲版	遠藤6094	宝 泉 寺	昭和53. 12. 15
"	"	旧江島寺梵鐘	渡内5-1-13	慈 眼 寺	平成10. 2. 12
"	書 跡	真名本 江嶋縁起	江の島2-3-8	江 島 神 社	昭和59. 3. 26
"	"	増壹阿鈴経 卷第三十六	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成 8. 3. 1
"	典 籍	聖徳太子伝暦	西富1-8-1	清 浄 光 寺	平成10. 2. 12
"	古 文 書	森文書	朝日町1-1	藤 沢 市	昭和59. 3. 26
"	考 古 資 料	南鍛冶山遺跡出土 人面墨書土器	朝日町1-1	藤 沢 市	平成 8. 3. 1
"	"	金銅装束鳳環頭大刀	朝日町1-1	藤 沢 市	平成26. 10. 1
"	"	「土甘」銘刻書土師器	朝日町1-1	藤 沢 市	平成26. 10. 1
"	歴 史 資 料	相中留恩記略と関連史料67点	朝日町1-1	藤 沢 市	平成12. 7. 7
"	"	江の島大絵図	江の島	個 人	平成25. 12. 11
"	"	小笠原東陽筆祭礼のぼり旗	羽鳥3-15-28 城南5-3-28	御 八 靈 坂 神 社 御 八 靈 坂 神 社	平成25. 12. 11
"	"	江の島道入口鳥居の沓石	西富1-8-1	清 浄 光 寺	令和 3. 2. 1
"	"	木造蓮華座附木造聖観音立像	本町4-5-21	常 光 寺	令和 3. 6. 1
"	"	小栗判官伝承関係資料一括	西富1-9-27	長 生 院	令和 5. 11. 1
"	有形民俗文化財	群猿奉養像の庚申供養塔	江の島2-5-23	江 島 神 社	昭和38. 3. 25
"	"	猿田彦大神石廟	西俣野1891	西 俣 野 御 嶽 大 神	昭和40. 5. 31
"	"	万治2年庚申供養塔	遠藤2539	遠 藤 御 嶽 大 神	昭和52. 4. 13
"	"	寛文12年庚申供養塔	大庭5457 北の谷共同墓地内	北 の 谷 行 事	昭和52. 4. 13
"	"	寛文7年庚申供養塔	羽鳥3-15-28	御 霊 神 社	昭和52. 4. 13
"	"	寛文10年庚申供養塔	城南1-3-6 稲荷神社境内	二 ツ 家 町 内 会	昭和52. 4. 13
"	"	寛文13年庚申供養塔	藤沢92 庚申堂境内	遊 行 通 り 4 丁 目 町 内 会	昭和52. 4. 13
"	"	承応2年庚申供養塔	伊勢山公園内	白 旗 神 社	昭和52. 4. 13
"	"	寛文5年庚申供養塔	藤沢2-4-7	白 旗 神 社	昭和52. 4. 13
"	"	万治2年庚申供養塔	本町4-5-21	常 光 寺	昭和52. 4. 13
"	"	寛文9年庚申供養塔	本町4-5-21	常 光 寺	昭和52. 4. 13
"	"	寛文4年庚申供養塔	村岡東2-17-1	個 人	昭和52. 4. 13
"	"	寛文6年庚申供養塔	辻堂元町2-4-27	宝 珠 寺	昭和52. 4. 13
"	"	寛文庚申供養塔	片瀬3-16-2	個 人	昭和52. 4. 13
"	"	八臂青面金剛像庚申供養塔	下土棚1662-2	個 人	昭和52. 4. 13
"	"	木造青面金剛及び両脇侍立像	藤沢92 庚申堂境内	遊 行 通 り 4 丁 目 町 内 会	昭和59. 3. 26
"	"	鵜沼皇大神宮人形山車	鵜沼神明2-11-5	鵜 沼 皇 大 神 宮 人 形 山 車 連 合 保 存 会	昭和63. 12. 16
"	"	元禄2年庚申供養塔	菖蒲沢461	個 人	平成 4. 2. 1
"	"	応永26年板碑	打戻1201	個 人	平成 4. 2. 1
"	"	貞享3年石造狛犬	長後1412	天 満 宮	平成 4. 2. 1

指定区分	区 分	名 称	所 在 地	所有者又は管理者	指定年月日
市指定	有形民俗文化財	辻堂諏訪神社人形山車	辻堂元町4町内会	辻 堂 諏 訪 神 社 人 形 山 車 保 存 連 合 会	平成 5. 11. 1
〃	〃	鵜沼の印裃	鵜沼海岸2-10-34	鵜沼郷土資料展示室 運 営 委 員 会	平成31. 4. 1
〃	無形民俗文化財	西富ばやし		西 富 町 囃 子 保 存 会	昭和45. 11. 21
〃	〃	川名屋台ばやし		川 名 屋 台 ば や し 保 存 会	昭和51. 4. 15
〃	〃	藤沢とび職木遣 (梯子のり、纏ふりを含む)		藤 沢 と び 職 組 合 連 合 会 木 遣 保 存 会	昭和51. 4. 15
〃	〃	片瀬餅つき唄		片 瀬 餅 つ き 唄 保 存 会	昭和51. 4. 15
〃	〃	湯立神楽		藤 沢 湯 立 神 楽 保 存 会	平成 8. 3. 1
〃	〃	下土棚白山神社 獅子舞保存会		下 土 棚 白 山 神 社 獅 子 舞 保 存 会	平成12. 7. 7
〃	〃	遠藤焼米つき唄・白ひき唄		遠 藤 農 作 業 唄 保 存 会	平成26. 10. 25
〃	〃	江の島 天王祭		江 の 島 天 王 祭 保 存 会	令和 2. 4. 1
〃	史 跡	杉山和一の墓	江の島2-2-14	西 浦 壺 園 管 理 委 員 会	昭和38. 3. 25
〃	〃	大橋重政の墓	鵜沼神明3-3-21	空 乗 寺	昭和40. 5. 31
〃	〃	耕余塾の跡	羽鳥3-10-30	藤 沢 市	昭和44. 2. 8
〃	〃	西富貝塚	西富425	清 浄 光 寺	昭和51. 4. 15
〃	〃	神光寺横穴古墳(横穴墓)群	川名566～579	神 光 寺	昭和52. 4. 13
〃	〃	浄土院筆子塚群	菖蒲沢890	浄 土 院	平成 4. 2. 1
〃	〃	善然寺筆子塚群	下土棚1042	善 然 寺	平成 4. 2. 1
〃	〃	大庭の舟地藏伝承地	大庭5202-7	表 郷 町 内 会	平成31. 2. 1
〃	〃	大庭城跡	大庭5230-1	藤 沢 市	令和 3. 12. 1
〃	〃	伝小栗判官主従・照手姫墓域	西富1-9-27	長 生 院	令和 5. 11. 1
〃	天 然 記 念 物	混生樹(寄り木)	渡内5-1-13	慈 眼 寺	昭和44. 2. 8
〃	〃	クックアロウカリア	江の島サムエル・ コッキング苑内	藤 沢 市	昭和46. 7. 5
〃	〃	シマナンヨウスギ	江の島サムエル・ コッキング苑内	藤 沢 市	昭和46. 7. 5
〃	〃	タイミンチク群	江の島サムエル・ コッキング苑内	藤 沢 市	昭和46. 7. 5
〃	〃	大イチョウ	西富1-8-1	清 浄 光 寺	昭和46. 7. 5
〃	〃	臺谷戸稲荷の森	大庭1809～1810	稲 荷 神 社	昭和48. 3. 7
〃	〃	常光寺の樹林	本町4-5-21	常 光 寺	昭和51. 4. 15
国登録	有 形 文 化 財	岩本楼ローマ風呂	江の島2-2-7	有限会社 岩本楼本館	平成13. 11. 20
〃	〃	旧近藤邸	鵜沼東8-1	藤 沢 市	平成14. 8. 21
〃	〃	旧後藤医院鵜沼分院	鵜沼橋1-1850-40	藤 沢 市	平成22. 9. 10
〃	〃	桔梗屋 店蔵・主屋・文庫蔵	藤沢1-751-1他	藤 沢 市	平成25. 12. 24
〃	〃	旧三齋八郎右衛門家住宅 主屋・門	羽鳥3-1039-1	法 人	平成25. 12. 24
〃	〃	林家住宅主屋	鵜沼桜が岡	個 人	平成26. 10. 7
〃	〃	旧稲元屋呉服店 内蔵・一番蔵	藤沢	個 人	平成27. 8. 4
〃	〃	月山堂滴水庵 主屋・待合・大門	辻堂太平台	個 人	平成28. 2. 25
〃	〃	清浄光寺 本堂他 計10件	西富1-208	清 浄 光 寺	平成28. 2. 25
〃	〃	関次商店 穀物蔵・肥料蔵	本町	個 人	平成28. 2. 25

指定区分	区 分	名 称	所 在 地	所有者又は管理者	指定年月日
国登録	有 形 文 化 財	旧越前屋雨谷商店店舗兼主屋	打戻1119	盛 岩 寺	平成29. 5. 2
〃	〃	旧石曾根商店店舗兼主屋	藤沢	個 人	平成29. 10. 27
〃	〃	尾日向家住宅洋館・和館	鶴沼松が岡	個 人	平成30. 3. 27
〃	〃	旧鈴木薬店店舗兼主屋	大鋸	個 人	平成30. 3. 27
〃	〃	有田家住宅 主屋・土蔵	大鋸3丁目139-2他	藤 沢 市	平成31. 3. 29
〃	〃	玉屋本店店舗兼主屋	片瀬海岸	個 人	令和 2. 4. 3
〃	〃	旧藤澤カントリー倶楽部クラブハウス（グリーンハウス）	善行7丁目1-2	神 奈 川 県	令和 3. 2. 26
〃	〃	福岡家住宅橐駝庵	辻堂	個 人	令和 3. 2. 26
〃	〃	龍口寺 妙見堂他 計4件	片瀬3丁目2822	龍 口 寺	令和 3. 2. 26
〃	〃	齋藤家住宅 主屋他 計3件	本鶴沼	個 人	令和 3. 6. 24

資料：郷土歴史課

## 7 藤沢市略年表

年 号	西 暦	事 項
先 土 器 時 代	BC30,000	相模原台地に人々が生活するようになる
縄 文 時 代	BC8,000 ～300	<p>早前期…撚糸文や羽状縄文土器が藤沢市域各地の洪積台地より出土</p> <p>中 期…藤沢市域の遺跡数増加、集落規模拡大、住居跡が出土</p> <p>後 期…藤沢市域の遺跡分布は内陸部に及ぶ</p> <p>晩 期…藤沢市域の遺跡数は著しく減少</p>
弥 生 時 代	BC300 ～300	<p>前 期…東日本では縄文文化が続く</p> <p>中 期…藤沢市域では中期後半の集落が出現、方形周溝墓が出土</p> <p>後 期…稲荷台地などに大集落が形成された</p>
古 墳 時 代	300～500  500～600 600～700	<p>前 期…引地川右岸（辻堂高山）や片瀬川左岸（大源太）に低地遺跡が出現、土師式土器が出土</p> <p>中 期…土師式土器の中期の土器をとこなう集落が出現</p> <p>後 期…洪積台地より低い小段丘上に遺跡が形成され、堅穴住居址と竈が出現、小規模な高塚式古墳も形成される</p> <p>丘陵や洪積台地の斜面には副葬品をとこなった横穴墓がみられるようになり、砂丘上にも集落が広がる</p>
大 化 元 年	645年	東国に国司が派遣される
天 武 4 年	675年	「日本書紀」に高倉郡（高座郡）がはじめて見える
持 統 3 年	689年	諸国に戸籍を制定（50戸＝1里）
天 平 7 年	735年	相模国司の作成した記録に土甘郷（現鶴沼あたり）が見える
天 平 勝 宝 元 年	749年	方瀬（片瀬）郷の郷戸主大伴部首麻呂、調庸布一端を朝廷に貢進する
延 暦 14 年	795年	東国からの防人を廃止する
延 暦 21 年	802年	富士山大噴火、相模国に大被害がある
元 慶 2 年	878年	関東地方大地震、相模国に大被害がある
昌 泰 2 年	899年	この頃、関東地方に僭馬の党といわれる群盗が横行、足柄や碓氷に関所が設けられる
延 長 5 年	927年	「延喜式」完成、市内の大庭神社・宇都母知神社が見える
承 平 5 年	935年	平将門、乱をおこし、相模国など関東諸国の国府を攻める
寛 仁 4 年	1020年	「更級日記」の作者菅原孝標女、相模国もろこしか原（高座郡南部の砂丘地帯）を通る
永 承 2 年	1047年	延暦寺の皇慶、江の島縁起を撰述する
永 承 6 年	1051年	前九年の役が起り、坂東武士の多くが源頼義に従う
永 保 3 年	1083年	後三年の役が起り、坂東武士の多くが源義家に従う
寛 治 元 年	1087年	鎌倉権五郎景正・三浦平太郎為次ら、源義家に従い、出羽国金沢柵を攻める
長 治 年 間	1104年 ～1106年	この頃、鎌倉権五郎景正、山野を開発し、私領として伊勢神宮へ寄進する（大庭御厨の成立）
長 承 元 年	1132年	御厨司平景継、伊勢神宮禰宜らに大庭御厨が相模国司に収公されたことを訴える
天 養 元 年	1144年	鎌倉に住む源義朝、大庭御厨を鎌倉郡内と号して俣野川を越えて乱入、鶴沼郷の魚・大豆・小豆などを奪う
保 元 元 年	1156年	保元の乱が起り、大庭景義・景親ら、後白河天皇方の源義朝に属して戦う
治 承 4 年	1180年	大庭景親ら、源頼政の挙兵に伴い、平氏の命により在京し、のち帰国 ○伊豆の源頼朝、挙兵 ○景親、俣野景久らとともに石橋山で頼朝軍を敗る ○頼朝、鎌倉に入る ○景親、片瀬川辺において処刑される ○俣野景久は京都へ逃れる
養 和 元 年	1181年	鶴岡若宮造宮遷宮にあたり、大庭御厨痔（神館）の一古娘（巫女）が頼朝の命で参上奉仕する ○渋谷重国、石橋山では頼朝に敵対したが、その後降る
寿 永 元 年	1182年	頼朝の祈願により、文覚が弁才天女を江の島に勧請、頼朝は江の島に参詣して鳥居を建てる
文 治 5 年	1189年	源義経、奥州衣川館で殺害され、その首が腰越へ運ばれる ○頼朝、奥州藤原氏を滅ぼす ○頼朝、鷹狩のため大庭の辺まで来て、高座郡の渋谷重国の館に泊る
建 久 8 年	1197年	大庭に薬師如来坐像（のちの養命寺本尊）が造られる

年号	西暦	事項
正治2年	1200年	将軍源頼家、大庭野で狩を行う
承元2年	1208年	鎌倉鶴岡八幡宮の供僧、江の島龍穴で祈雨
建保元年	1213年	和田の乱が起こり、渋谷高重・大庭景廉ら、相模の御家人が多く戦死する
建保4年	1216年	江島明神の託宣があり、海中に道路ができ、参詣者が徒歩で群参する
安貞2年	1228年	将軍藤原頼経、江島明神参詣の帰りに三浦義村の大庭館に泊まる
寛元3年	1245年	渋谷氏、自領のうち打戻・深谷等を鎌倉への人夫等を提供する場所として定める
寛元4年	1246年	渋谷定心、四郎重経に高座郡吉田上庄内寺尾村の他2か所を譲渡する
宝治元年	1248年	渋谷定心、薩摩国入来院を拝領し移る
文永2年	1265年	渋谷明重、子の有重へ高座郡吉田上庄の地および薩摩国入来院の地などを譲る
文永8年	1271年	日蓮、片瀬竜口で処刑されそうになるが佐渡へ流罪となる
建治元年	1275年	元の使者・杜世忠ら5人、竜口刑場で斬首される
建治3年	1277年	渋谷重経、子息らへ高座郡寺尾・大住郡大上などの領地を譲渡する
弘安5年	1282年	一遍、鎌倉入りを拒まれ、片瀬の浜の地藏堂に逗留する
正安元年	1299年	渋谷重世、渋谷屋敷・田島などの所領を譲与、これを鎌倉幕府が認可する
正中2年	1325年	遊行4代呑海、藤沢に清浄光院（遊行寺）を創建する
元弘3年	1333年	新田義貞軍、村岡で鎌倉幕府軍と交戦、幕府滅亡する
延文元年	1356年	清浄光院（遊行寺）の梵鐘ができる
永徳2年	1382年	鎌倉鶴岡八幡宮の華光坊頼俊、江島別当に任じられる
応永23年	1416年	清浄光寺（遊行寺）および京都七条道場金光寺の時衆、人馬・輿などの諸国関所通過を室町幕府から許可される
応永25年	1418年	上杉禅秀の乱の全犠牲者をとむらうため、遊行14代太空を導師として、遊行寺の境内に敵御方供養塔が造立される
応永29年	1422年	鎌倉鶴岡八幡宮の正覚院弘範、尊仲に江島別当を譲る
応永33年	1426年	遊行寺炎上する
永享7年	1435年	鎌倉公方足利持氏、遊行寺に仏殿120坪を造営寄進する
永享11年	1439年	関東管領上杉憲実、鎌倉に持氏を攻め自害させる ○憲実、遊行寺で遁世する
宝徳2年	1450年	太田資清・長尾景仲、鎌倉公方足利成氏を襲撃、成氏は江の島へ逃れる
康正元年	1455年	足利成氏、前年末に上杉憲忠を謀殺したため、室町幕府軍の追討をうけ古河に移る
寛正6年	1465年	伊勢神宮禰宣荒木田氏経、太田資長（道灌）に対し、武家の輩に押領された神宮領大庭御厨からの年貢の善処を依頼する
長享2年	1488年	扇谷上杉氏、山内上杉氏に相模の拠点七沢城を攻め落とされ、大庭に拠点を移す
明応8年	1499年	この頃、扇谷上杉朝昌が大庭城を守備、山内上杉氏に対抗する
永正元年	1504年	伊勢宗瑞（北条早雲）、江の島に軍勢の乱妨狼藉をやめさせる禁制を出す
永正6年	1509年	宗瑞、扇谷上杉朝良に敵対し武蔵江戸に侵攻
永正9年	1512年	宗瑞、扇谷上杉方の大庭城を攻め落とす
永正10年	1513年	遊行寺、宗瑞と三浦道寸の合戦による兵火で焼亡、本尊を駿府長善寺に移す
享祿2年	1529年	北条氏時、渡内二伝寺に掟書を下す
天文元年	1532年	能楽師観世長俊、伊豆熱海に湯治の折、能「江野島」を作る
天文4年	1535年	武蔵河越の扇谷上杉朝興、相模国に侵入、茅ヶ崎・鶴沼などを焼き払う
天文11年	1542年	北条氏康、埴和又太郎に高座郡千束・七次・長後等の反銭・棟別銭等を免除する
天文13年	1544年	江の島岩本坊、江の島遷宮に際し北条氏の一族・家臣などから金品の寄進を募る
天文15年	1546年	氏康、武蔵河越への出陣に際し、江の島に神馬を奉納、合戦に勝利する
天文18年	1549年	氏康、江の島上之宮・下之宮修造に際し白糸20斤を寄進する
天文20年	1551年	玉縄城主北条綱成、江の島岩屋内における鳩の殺生を禁止する
弘治元年	1555年	北条氏、森木工助らに藤沢の伝馬屋敷の年貢収納を認める
弘治2年	1556年	綱成、森弥五郎・木工助が藤沢の客料25人の触口役であることを証する

年 号	西 暦	事 項
永 禄 元 年	1558年	遊行29代体光、北条綱成に遊行寺の再興を依頼する
永 禄 2 年	1559年	北条氏、家臣の所領台帳として「北条家所領役帳」を作成、市域の郷村が見える
永 禄 4 年	1561年	北条氏、藤沢で新たな商売を始めたいとの嘆願をうけ、酒役などを免除する
永 禄 6 年	1563年	板部岡康雄、江の島下之坊に所領の用田郷から100疋を寄進し長久の祈念を願う
永 禄 11 年	1568年	氏康、藤沢の森木工助・大鋸引らに相模七沢での作業を命じる
元 亀 2 年	1571年	氏康室、江の島岩本坊に甲斐武田氏との戦での戦勝祈念を依頼する
天 正 5 年	1577年	北条氏繁、下総飯沼での築城にあたり、藤沢の森木工助に大鋸の仕事を命じる
天 正 6 年	1578年	氏繁、遊行から逃亡した時衆・尼衆が遊行寺跡地・門前に居住することを禁じる
天 正 7 年	1579年	北条氏照、江の島岩本坊に不入・留浦など5か条の定書を下す ○岩本坊、上之坊を兼帯する
天 正 13 年	1585年	江の島下之坊、出陣中の北条氏直を音問し塩漬け鮑を献上する
天 正 14 年	1586年	この頃、宮原・円行・土棚・七次などには紺屋があり、紺屋役を納めていた
天 正 18 年	1590年	豊臣秀吉、小田原北条氏を攻め、今田・亀井野・村岡・江の島などへ禁制を下す ○北条氏滅亡、徳川家康関東入国、市域の諸村は徳川氏の直轄領・旗本領に
天 正 19 年	1591年	大庭村に検地が実施される
慶 長 元 年	1596年	この頃、藤沢に御殿・代官陣屋（旧藤沢公民館あたり）が設置される ○彦坂元正、代官となる
慶 長 4 年	1599年	彦坂元正、村岡郷に郷中仕置令を出す
慶 長 5 年	1600年	徳川家康、藤沢御殿に泊まり、江の島へも参詣する
慶 長 6 年	1601年	家康、東海道の伝馬制度を整え、藤沢などの各宿に伝馬36疋を常置させる
慶 長 8 年	1603年	藤沢宿、戸塚町の駄賃稼の不法を訴え、代官が不法を禁止する
慶 長 9 年	1604年	家康、遊行寺に参詣者の喧嘩口論停止の制札を立てさせる ○戸塚宿、新設
慶 長 10 年	1605年	遊行寺領西村に検地が実施される
慶 長 12 年	1607年	遊行32代普光、再建なった遊行寺に入山する
慶 長 19 年	1614年	七ッ木・千束村、旗本遠藤氏の知行地となる
元 和 3 年	1617年	この頃、宮原村で惣百姓が逃散し、荒地の開墾などの対策が講じられる
元 和 8 年	1622年	羽鳥村惣百姓、藤沢代官から草刈場への入会を禁止されたため、幕府に訴える
寛 永 11 年	1634年	徳川家光、上洛途中藤沢御殿に泊る
寛 永 12 年	1635年	羽鳥村で名主、小前農民間に土地争論がおこる
寛 永 15 年	1638年	羽鳥村にキリシタン改が実施される、この頃より寺請制度開始される
寛 永 16 年	1639年	羽鳥村と大庭村に村境争論がおこる
寛 永 17 年	1640年	江の島岩本坊と上之坊との間に本末争論おこる ○藤沢宿に伝馬100疋の常置が義務づけられ、地子1万坪が免除される
慶 安 2 年	1649年	江の島岩本院、京都仁和寺の末寺となる ○岩本院、江の島弁才天境内の山林・竹木諸役免除の朱印状を与えられる
明 暦 3 年	1657年	羽鳥村、移住してきた浪人の立ち退きを代官所に願書を差し出す
延 宝 元 年	1673年	藤沢宿大鋸町、町衰微のため月2回の市の開催を代官所に願う
延 宝 2 年	1674年	徳川光圀、鎌倉・江の島を巡覧調査する のち「新編鎌倉志」を編纂する
天 和 2 年	1682年	この頃までに藤沢御殿・陣屋が廃止される
天 和 3 年	1683年	鶴沼村、新田開墾の用水を円行村から引く
貞 享 元 年	1684年	村岡地域に検地が実施される
元 禄 2 年	1689年	羽鳥村、定助郷役負担にともない、百姓困窮のため助郷役の軽減を願う
元 禄 7 年	1694年	藤沢宿の助郷村、鎌倉郡22カ村、高座郡22カ村となる
元 禄 13 年	1700年	市域の村々、飢饉にみまわれ、多数の飢人が出る
宝 永 4 年	1707年	富士山噴火、藤沢市域諸村には約20～30センチメートルの火山灰が降る
正 徳 元 年	1711年	宿人馬利用の公定賃銭が公布される

年 号	西 暦	事 項
享保13年	1728年	鵜沼・辻堂・茅ヶ崎の海岸に幕府の鉄砲場(大筒試射場)が置かれる
延享3年	1746年	この頃、大鋸橋(現遊行寺橋)の脇に江の島鳥居が建てられる
明和5年	1768年	片瀬村、津村・腰越村と海岸に打ち寄せた船板の帰属をめぐり漁場境を争う、幕府の裁許で片瀬村は地引網漁、津村・腰越村は沖漁を営むこととなる
天明元年	1781年	地引網漁場をめぐり、片瀬村と鵜沼村が争論をおこす
天明3年	1783年	前年に続き関東・東北大凶作、藤沢宿でも飢饉が深刻化する
天明6年	1786年	長雨で境川氾濫、藤沢宿で浸水、民家が流失する
文政10年	1827年	改革組合村が設けられ藤沢宿に寄場が設置される、市域の村々は藤沢宿寄場組合・戸塚宿寄場組合・深谷寄場組合に属す
文政12年	1829年	紀州藩より遊行寺へ寄附金があり、これを元金に遊行寺で祠堂金貸附を始める
天保元年	1830年	大庭村近隣村名主寄合の席で名主同志の刃傷事件がおこる
天保7年	1836年	天保飢饉により米価高騰、藤沢宿は打ちこわし寸前の不穏な状況となる、遊行寺や藤沢宿内の上層商人等は米や金銭の施行を行う
天保8年	1837年	一之宮寄場組合、藤沢宿寄場組合より独立、藤沢市北部4ヵ村がこれに属す
天保10年	1839年	渡内村名主福原高峯(左平太)、相模国地誌「相中留恩記略」全25巻を編纂し幕府へ献上する
嘉永5年	1852年	村岡地域の5ヵ村、彦根藩預かり地となり異国船警備人足役を命じられる
安政2年	1855年	江戸に大地震、藤沢宿でも潰家が多数出る ○市域の村々へ種痘実施の通知がある
安政3年	1856年	関東地方に台風、市域の村々でも高波や大風により被害が出る
安政4年	1857年	羽鳥村名主と小前農民との間で小作料減額などをめぐり、名主-小前百姓間に村方騒動がおこる
安政5年	1858年	コレラが大流行、藤沢宿周辺で死者149人
安政6年	1859年	神奈川開港、自由貿易開始、市域の村々も外国人の歩行区域内となる
万延元年	1860年	藤沢宿に外国人暗殺防止のための見張番屋が置かれる
元治元年	1864年	藤沢宿を中心に農兵が組織され数十人が兵式訓練をうける ○将軍徳川家茂、長州征伐のための上洛途中遊行寺に止宿する
慶応2年	1866年	米価高騰のため藤沢宿の貧窮民、大鋸町の穀商を打ちこわす
慶応3年	1867年	藤沢宿に“ええじゃないか”騒動が起こる
明治元年	1868年	藤沢宿・鵜沼・大庭・羽鳥・辻堂村など韮山県に属す ○明治天皇、東京へ行幸途中遊行寺に宿泊する
明治3年	1870年	本陣・脇本陣廃止される ○藤沢宿に郷学所済美館設立
明治4年	1871年	川崎-横浜-藤沢間に人力車の営業開始
明治5年	1872年	小笠原東陽、羽鳥村に私塾読書院(現明治小学校)を開く ○名主・庄屋を廃止、戸長・副戸長を置く ○坂戸常光寺に邏卒屯所(警察署の前身)を置く ○鵜沼学舎(現市立鵜沼小学校)・成美学舎(現市立藤沢小学校)設立
明治6年	1873年	江の島で神仏分離 ○区・番組制が設けられ、区長・戸長・副戸長・村用掛が置かれる ○村岡学校(現市立村岡小学校)・用田学舎(現市立御所見小学校)・石川学校・琢成小学舎(遠藤村)設置される
明治7年	1874年	大区・小区制が施行される ○篤信学舎(西富の私塾)・臨海学舎(現市立片瀬小学校)・辻堂塾・西富小学舎・川名小学舎設立
明治8年	1875年	藤沢に地租改正実施される ○亀井野学校・長明学校(長後)設立
明治10年	1877年	E・モース、江の島に臨海実験所を設営
明治11年	1878年	読書院、耕余塾と改称 ○大区・小区制廃止 ○高座郡役所を藤沢におき、郡・町・村を行政区画とする
明治13年	1880年	東坂戸町より大火発生、西富・大鋸町まで延焼する
明治14年	1881年	藤沢宿で自由民権運動の演説会が開催される

年 号	西 曆	事 項
明 治 16 年	1883年	長後村を中心に自由民権運動団体“真友会”発足
明 治 20 年	1887年	国鉄東海道線横浜－国府津間が開通、藤沢停車場が開設される
明 治 22 年	1889年	町村制施行に伴い、現藤沢市域に藤沢大坂町(大久保・坂戸町合併)・藤沢大富町(大鋸町・西富村合併)・村岡村(弥勒寺・小塚・宮前・高谷・渡内・川名・柄沢村合併)・川口村(片瀬村・江の島合併)・明治村(羽鳥・大庭・辻堂・稲荷村合併)小出村(遠藤村他現茅ヶ崎市他4か村合併)・御所見村(用田・葛原・菖蒲沢・瀬郷・打戻・宮原村合併)・六会村(円行・亀井野・下土棚・西俣野・今田・石川村合併)・渋谷村(長後・高倉村他現大和市3か村合併)が成立する
明 治 24 年	1891年	明治天皇、相模原の陸軍大演習天覧のため、藤沢(行在所設置)・長後(井上氏宅)に泊る ○片瀬海岸、学習院の遊泳訓練場に指定される
明 治 25 年	1892年	遊行寺へ東京日輪寺より東部大学林を移す ○尋常高等六会小学校(現市立六会小学校)創立
明 治 26 年	1893年	片瀬に渡辺貝細工工場設立
明 治 28 年	1895年	鵜沼海岸、海水浴場として知られるようになる
明 治 30 年	1897年	耕余義塾閉塾される ○江の島・片瀬間に村営棧橋完成
明 治 35 年	1902年	江之島電気鉄道(藤沢－片瀬間)開通
明 治 40 年	1907年	藤沢郵便局で電話交換を開始(加入者33軒) ○藤沢大坂町と藤沢大富町が合併、藤沢大坂町となる
明 治 41 年	1908年	藤沢大坂町・鵜沼村・明治村が合併、藤沢町となる
明 治 43 年	1910年	江之島電気鉄道(江ノ電)全線開通
大 正 5 年	1916年	国鉄辻堂駅開業 ○私立藤嶺中学校(現藤嶺学園藤沢高等学校)開校
大 正 10 年	1921年	県立湘南中学校(現県立湘南高等学校)開校
大 正 12 年	1923年	関東大震災により、藤沢地域で4,000余戸が倒壊
大 正 14 年	1925年	町立藤沢実科高等女学校(県立藤沢高等学校)開校
昭 和 4 年	1929年	小田原急行鉄道江の島線(長後－江の島間)開通
昭 和 6 年	1931年	藤沢商業学校(現藤沢翔陵高等学校)開校
昭 和 8 年	1933年	私立湘南学園創立
昭 和 12 年	1937年	片瀬乃木小学校(現湘南白百合学園小学校)創立
昭 和 13 年	1938年	藤沢第4小学校(現市立本町小学校)・私立乃木高等女学校(現湘南白百合学園中学・高等学校)創立
昭 和 15 年	1940年	10月、高座郡藤沢町を廃し、市制施行 初代市長大野守衛氏就任 公益質屋開設 第5回国勢調査実施(人口36,769人)
昭 和 16 年	1941年	6月、鎌倉郡村岡村を合併 12月、公共職業安定所開設
昭 和 17 年	1942年	3月、高座郡六会村を合併 7月、高座郡地方事務所開庁 11月、2代市長金子小一郎氏就任
昭 和 21 年	1946年	6月、3代市長飛島繁氏就任
昭 和 22 年	1947年	2月、婦人公共職業補導所開設 4月、鎌倉郡片瀬町を合併 学校教育法の施行に伴い新制中学校創立 8月、藤沢区検察庁、簡易裁判所開設 10月、臨時国勢調査実施(人口78,759人)
昭 和 23 年	1948年	2月、市共同作業所開設 3月、藤沢市消防署設置 市警発足 4月、4代市長伊沢十郎氏就任 7月、市立図書館開館
昭 和 24 年	1949年	3月、江の島弁天橋竣工 12月、江の島植物園開園
昭 和 25 年	1950年	5月、市授産場開設 10月、市章・市歌決まる 第7回国勢調査実施(人口84,581人)
昭 和 26 年	1951年	3月、市庁舎落成 6月、市立藤沢保育園開園 10月、辻堂支所設置 11月、市立藤沢公民館開館

年 号	西 暦	事 項
昭 和 27 年	1952年	3月、5代市長金子小一郎氏就任 6月、市立辻堂保育園開園 7月、住民登録制度実施 11月、藤沢市教育委員会設置
昭 和 29 年	1954年	6月、市警廃止 7月、国保事業実施 江の島水族館開館
昭 和 30 年	1955年	4月、御所見村、渋谷町の一部、小出村の一部合併 9月、市営じんかい焼却場竣工 10月、第8回国勢調査実施（人口109,101人） 市立秩父宮記念体育館落成 11月、第10回国体バレー、サッカー、剣道、バスケット競技本市内にて開催
昭 和 31 年	1956年	2月、6代市長金子小一郎氏就任 4月、湘洋中学校、大道小学校開校 5月、市立伝染病棟竣工
昭 和 32 年	1957年	3月、都市計画用途地域指定 12月、都市計画街路及び施行年度割決定 藤沢駅南部土地区画整理事業区域決定
昭 和 34 年	1959年	3月、マイアミ・ビーチ市と都市提携を結ぶ 10月、八松小学校、明治小学校八松分校より独立開校
昭 和 35 年	1960年	2月、7代市長金子小一郎氏就任 10月、第9回国勢調査実施（人口124,601人） 小田急江ノ島線善行駅開設
昭 和 36 年	1961年	4月、市立藤ヶ岡中学校開校 7月、松本市と都市提携を結ぶ 9月、加温処理場竣 11月、首都圏市街地開発区域に指定
昭 和 37 年	1962年	1月、北部土地区画整理事業区域決定 4月、市興業公社発足 市立白浜養護学校 開校 6月、片瀬公民館落成 新住居表示制度の実験都市に指定
昭 和 38 年	1963年	4月、辻堂青少年会館開館 5月、北部開発事務所開設 6月、藤沢バイパス開通 （延長5,250m） 8月、国鉄藤沢踏切地下道工事着手 9月、藤沢給食センター落成 10月、市立中央図書館開館 長後消防出張所開所 11月、藤沢市防災計画決まる
昭 和 39 年	1964年	2月、8代市長金子小一郎氏就任 4月、市立高砂小学校開校 5月、江の島水族館 海獣動物園開園 6月、鶴沼保育園開園 7月、新住居表示制度で鶴沼の一部実施 市民憲章制定 10月、福社会館開館 第18回オリンピック東京大会ヨット 競技を江の島沖で開催
昭 和 40 年	1965年	2月、消防庁舎起工式 3月、平和の像除幕式 新市建設5ヶ年計画（昭和40～ 44年）決定 4月、市が建築確認事務を開始 6月、藤ヶ岡保育園開園 8 月、藤沢駅地下道開通 9月、聶耳記念碑除幕式 消防庁舎落成 10月、鶴沼神 明・本鶴沼・鶴沼海岸・片瀬海岸新住居表示を実施 第10回国勢調査実施 （人口175,183人） 11月、加温処理場増設工事完成
昭 和 41 年	1966年	1月、市役所電子計算機始動式 3月、御幣土地区画整理事業完成 辻堂駅前広場工事 完成 日本住宅公団善行団地に約2,300世帯入居 4月、善行保育園完成 市立善行小学校開校 5月、南部終末処理場高級処理運転開始 8月、村岡 公民館落成 9月、善行小学校落成 10月、藤沢・片瀬の一部住居表示実施 じん い焼却場増設完成 石川・円行の一部「桐原町」となる 11月、小田急江ノ島 線湘南台駅開設
昭 和 42 年	1967年	3月、市民会館起工式（総額6億5,000万円） 桐原工業団地完成（54.48ヘクタ ール、21社） 4月、辻堂駅前土地区画整理事業完成 5月、富士見台小学校・片瀬 中学校落成 6月、県藤沢合同庁舎落成 市営古里団地440戸の起工 8月、坂下 土地区画整理事業完成 10月、善行土地区画整理事業完成 辻堂地区に住居表示 （第5次） 11月、市民相談室始まる 人口20万人となる 地方自治法施行20周年 記念で優秀都市として自治大臣より表彰される 12月、河原第2土地区画整理事業 完成
昭 和 43 年	1968年	1月、消防署本町出張所落成 2月、9代市長金子小一郎氏就任 4月、中学通り線 開通（延長1,443m） 明治保育園開園 5月、長後行政センター完成 6月、 鶴沼内田土地区画整理事業完成 9月、市民会館落成 10月、辻堂・羽鳥・大庭の 一部に住居表示（第6次） 11月、御幣下土地区画整理事業完成 12月、市営古里 団地落成

年 号	西 暦	事 項
昭和 44 年	1969年	3月、市内の農協が合併する 4月、辻堂行政センター完成 狼谷土地区画整理事業完成 6月、辻堂保育園開園 7月、“河川をきれいにする”都市宣言 老人福祉センター開所 10月、藤沢・大鋸・西富の一部に住居表示（第7次）
昭和 45 年	1970年	4月、鶴南小学校・浜見小学校開校 六会行政センター落成 市立高等看護学院開校 藤沢駅辻堂線開通（延長3,540m） 6月、市街化区域及び市街化調整区域決定 10月、市政施行30周年記念式典 市の木（クロマツ）市の花（フジ）を制定 第11回国勢調査実施（人口228,978人）
昭和 46 年	1971年	2月、下藤ヶ谷ポンプ場完成 3月、御殿辺ポンプ場完成 4月、俣野小学校・大越小学校開校 5月、西部開発事業起工式 10月、市民病院開院式
昭和 47 年	1972年	1月、遠藤行政センター完成 2月、10代市長葉山峻氏就任 4月、70歳以上の老人医療費無料となる 5月、浜見保育園開園 6月、養護老人ホーム「湘風園」開園 8月、建築協定第1号誕生 10月、天岳院下土地区画整理事業完成 12月、市民資料室発足
昭和 48 年	1973年	4月、児童手当10歳未満児に対象を拡大 湘南台小学校・高浜中学校開校 行政センターを“市民センター”に改称 江ノ電の高架工事開始 5月、湘南台保育園開園 6月、駅前窓口受付・交付事務発足 8月、移動図書館「そよかぜ2号」登場 移動入浴車「あゆみ号」始動 9月、藤沢駅北口再開発事業都市計画決定 10月、片瀬山・目白山に住居表示（第8次）
昭和 49 年	1974年	1月、0歳児の医療費無料となる 3月、古里団地に市営住宅60戸完成 4月、市民センター・公民館の使用料無料となる 中央図書館蔵書10万冊になる 5月、善行乳児保育園開園 鶴巻土地区画整理事業完了 7月、文書館開館 小中学校のプール日曜日一般開放始まる 8月、私立特別養護老人ホーム「鶴生園」開園 辻堂西口こ線人道橋が完成 松本市美ヶ原市民休暇村に「美ヶ原、ふじさわ山荘」利用開始 9月、善行学校給食合同調理場業務開始 10月、「印鑑登録証」制度に切替え 12月、消防署御所見出張所開設 湘南台駅橋上駅舎と自由通路開通
昭和 50 年	1975年	4月、城南に「福祉の家」開所 みどり普及センター開園 5月、長後市民図書室開館 6月、「太陽の家」開設 8月、藤沢駅北口再開発ビル着工 10月、第12回国勢調査実施（人口265,975人） 11月、湘南ライフタウン第1次宅地分譲開始 12月、中小企業卸売団地竣工
昭和 51 年	1976年	2月、片山文庫開設 11代市長葉山峻氏就任 3月、市営遠藤第2住宅完成 4月、大庭小学校・善行中学校・秋葉台中学校開校 藤が岡市民の家・本鶴沼市民の家開所 小塚踏切立体交差完成 太陽の家「福祉ライブラリー」開設 5月、労働会館開館 高倉市民の家・片瀬山市民の家開所 6月、辻堂市民の家開所 8月、柄沢保育園開園、移動図書館「新そよかぜ」登場 10月、市民センターに公民館を併設 大清水スポーツ広場の利用開始
昭和 52 年	1977年	3月、市営滝ノ沢住宅完成 中央卸売市場開設準備協議会が発足 4月亀井野小学校開校 下土棚市民の家開所 5月、あずま保育園開園 9月、第1回藤沢市総合計画審議会開催 10月、独居老人アパート「好日荘」開所 藤沢駅北口地下道開通 11月、辻堂駅南北自由通路開設
昭和 53 年	1978年	1月、辻堂市民センター開設 3月、新総合計画「基本構想」決定 羽鳥市民の家完成 4月、新林小学校・中里小学校開校 生きがい福祉センター開設 5月、渋谷ヶ原保育園開園 6月、故片山哲氏市民葬 江の島市民の家開所 7月、日影条例施行 8月、六会地区民具資料館開館 10月、新総合計画基本計画課題別市民討論集会・地区別市民集会始まる 11月、石川市民の家開所 藤沢駅北口再開発ビル完成

年 号	西 暦	事 項
昭和 54 年	1979年	4月、滝の沢小学校・大庭中学校開校 鶴南市民の家開所 5月、高山保育園開園 6月、村岡市民の家・藤沢石原谷市民の家開所 9月、藤沢駅北口人工広場完成 11月、善行市民センター開設
昭和 55 年	1980年	2月、12代市長葉山峻氏就任 4月、大鋸小学校・村岡中学校開校 御所見東部市民の家・六会市民の家開所 5月、少年の森開所 大清水市民の家開所 6月、藤沢駅橋上駅舎完成 8月、人口30万人を超える 9月、市民の歌「はだしになって走ってみよう」決まる 10月、全日本花いっぱい大会本市で開催 太陽の家体育館開館 第13回国勢調査実施（人口300,248人） 11月、市庁舎建設基本計画まとまる
昭和 56 年	1981年	4月、中央卸売市場開場 駒寄小学校・天神小学校・湘南台中学校開校 鶴沼公民館改築完成 辻堂市民の家・藤沢市民の家開所 5月、地区市民集会13地区で始まる 障害福祉都市に指定される 6月、事業所税徴収開始 10月、第1回スペシャルオリンピック全国大会を藤沢で開催 石名坂焼却施設建設着工 11月、中国の昆明市と都市提携を結ぶ
昭和 57 年	1982年	2月、長後滝山市民の家開所 4月、藤沢北消防署開設 高谷小学校・小糸小学校・滝の沢中学校・高倉中学校開校 5月、教育文化センター開設 6月、核兵器廃絶平和都市宣言 10月、心身障害児者歯科診療所開設 11月、大庭トンネル片側開通 県立婦人総合センター開設 12月、湘南ライフタウン第8次（最終）市民分譲行われる
昭和 58 年	1983年	1月、昼休み窓口証明業務開始 4月、大清水小学校開校 桐原野球場にナイター施設完成 5月、秋葉台球技場・辻堂南部公園テニスコート開設 川べり遊歩道開通 6月、新庁舎落成 9月、石名坂焼却場完成 11月、故金子小一郎氏市民葬
昭和 59 年	1984年	1月、立石市民の家開所 2月、13代市長葉山峻氏就任 4月、湘南台地域子供の家開所 大清水中学校開校 藤沢北警察署開設 8月、核兵器廃絶平和都市宣言モニュメント除幕式 10月、秋葉台文化体育館開館 「愛の輪福祉基金」設置
昭和 60 年	1985年	3月、片瀬地域子供の家開所 4月、文書館改築工事竣工 北消防署西部出張所開設 大庭城址公園開園 長後コミュニティホール完成 モース記念碑完成 5月、遠藤市民の家開所 6月、小栗塚市民の家開所 7月、東部下水処理場通水 八部野球場改築 10月、ふれあいセンター開所 公益質屋廃止される 第14回国勢調査実施（人口328,387人） 11月、市制45周年記念事業として市民オペラ「アイダ」公演 12月、湘南大庭市民センター（公民館併設）開設
昭和 61 年	1986年	1月、慶応義塾大学藤沢進出を公式表明 2月、情報公開制度スタート 3月、七ッ木市民の家開所 市民会館レセプションホール開設 4月、羽鳥中学校開校 善行乾塚市民の家開所 聶耳記念広場完成 羽鳥地域子供の家・中里地域子供の家開所 7月、故山口倉吉氏議会葬 9月、市営斎場開設 10月、総合市民図書館開館 11月、石名坂温水プール開設 12月、大清水スポーツ広場開設 大庭トンネル下り線開通
昭和 62 年	1987年	3月、藤沢地域子供の家開所 明治市民センター「健康プラザ」開設 4月、用田市民の家開所 6月、南市民図書館開館 8月、鶴沼地域子供の家開所 9月、明治市民の家開所 12月、カナダのウインザー市と姉妹都市提携調印
昭和 63 年	1988年	2月、14代市長葉山峻氏就任 4月、村岡地域子供の家開所 大越地域子供の家開所 個人情報保護制度スタート 学習文化センター開所 5月、村岡公民館改築 11月、秋葉台公園温水プール開設
平成 元年	1989年	3月、都市景観条例を制定 4月、市民病院新館完成 長久保都市緑化植物園・みどりの相談所開設 7月、湘南台文化センター、湘南台市民センター開設 12月、第二次新総合計画基本構想まとまる

年 号	西 暦	事 項
平成 2 年	1990年	3月、老人専用住宅「サンシルバー藤沢」開設 4月、秋まで「市制50周年」「サーフ'90」の数々の催しが行われる 6月、人口35万人を超える 10月、第15回国勢調査実施（人口350,330人） 湘南台文化センター「市民シアター」開設
平成 3 年	1991年	4月、「共生・活力・創造のまちへ」第二次新総合計画がスタート 7月、湘南なぎさ荘開設 市政の情報を電話で聞ける藤沢テレホンガイド開始 10月、日本女性会議「91ふじさわ」開催される
平成 4 年	1992年	2月、15代市長葉山峻氏就任 3月、八松子供の家「まっぼっくり」オープン 4月、藤沢産業センターがオープン 6月、八ヶ岳野外体験教室オープン 9月、学校週5日制スタート 10月、市の鳥「カワセミ」を制定 全市で大型ごみのクール制を導入 （財）藤沢市芸術文化振興財団の設立 藤沢ケーブルテレビが開局 12月、高規格救急車の運用開始 藤沢橋全面開通
平成 5 年	1993年	1月、人口36万人を超える 3月、本町子供の家オープン 5月、片瀬・御所見市民センターに福祉窓口開設 7月、辻堂市民図書館開館 11月、藤沢市民オペラ創立20周年「トゥーランドット」公演 12月、JR藤沢駅の貨物線新ホーム使用開始
平成 6 年	1994年	3月、江の島岩屋入場者50万人達成 4月、石川小学校開校 7月、保健医療センターオープン 11月、湘南辻堂地下道開通
平成 7 年	1995年	3月、高谷子供の家オープン 4月、六会駅自由通路開通 10月、第16回国勢調査実施（人口368,651人） 江の島岩屋入場者100万人達成
平成 8 年	1996年	1月、戸籍事務処理電算化スタート 2月、16代市長山本捷雄氏就任 3月、大庭市民の家オープン 俣野子供の家オープン 4月、看護専門学校落成式 藤沢エフエム放送開局 5月、図書館相互利用開始（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町） 8月、恋人の丘「龍恋の鐘」除幕式 9月、市環境基本条例制定 10月、オンブズマン制度スタート インターネット接続事業市のホームページ本格運用開始 モデル地区で半透明袋でのごみ収集開始 藤沢青少年会館の新会館オープン
平成 9 年	1997年	1月、土・日・祝日の証明窓口開設 3月、滝の沢市民の家開所 4月、全市でごみ収集袋が半透明・透明になる 片瀬しおさいセンター片瀬しおさい荘オープン式典 秩父宮記念体育館落成 5月、湘南台市民センターに地区福祉窓口開設 藤が岡地区にミニバス運行開始 6月、モデル地区でペットボトルの収集開始 9月、各市民センターで税証明書発行開始 10月、渡内地区にミニバス運行開始
平成 10 年	1998年	4月、辻堂児童館（つじどうむ）オープン 辻堂東海岸市民の家開所 南消防署村岡出張所開所 5月、鶴沼公民館に地区福祉窓口開設 八部公園屋内プール開設 7月、秋葉台公園屋外プール開設 9月、第53回かながわ・ゆめ国体夏季大会ヨット競技本市内にて開催 10月、同国体秋季大会バレーボール・サッカー・軟式野球競技本市内にて開催
平成 11 年	1999年	3月、相模鉄道いずみ野線湘南台駅へ乗り入れ 4月、資源・不燃ごみ収集日曜日指定に変更 全市域でペットボトルの収集開始 5月、老人福祉センター「こぶし荘」オープン 7月、辻堂地区で住居表示実施 8月、横浜市営地下鉄1号線湘南台へ乗り入れ 9月、市民窓口センター木曜日時間外窓口開設
平成 12 年	2000年	1月、市民窓口センター火曜日時間外窓口増設 2月、17代市長山本捷雄氏就任 4月、湘南大庭市民図書館開館 5月、善行市民センターに地区福祉窓口開設 7月、鶴沼児童館（わんぱくワールド）オープン 10月、第17回国勢調査実施される（人口379,185人） 12月、（財）藤沢市スポーツ振興財団設立
平成 13 年	2001年	1月、江の島岩屋入場者200万人達成 3月、藤沢市地域IT基本計画を策定 4月、ふじさわ総合計画2020スタート 高谷市民の家オープン 7月、鶴沼海浜公園スケートパークがオープン 11月、藤沢市情報公開システムがスタート

年 号	西 暦	事 項
平成 14 年	2002年	8月、辻堂砂山市民の家・児童館オープン 10月、市全域でプラスチック製容器包装の収集開始 藤沢市生涯学習大学かわせみ学園開校 11月、韓国の保寧市と姉妹都市提携調印
平成 15 年	2003年	1月、江の島展望灯台新旧交代 4月、江の島サムエル・コッキング苑オープン 5月、鶴沼市民センターオープン 10月、湘南台文化センターこども館入場者300万人達成
平成 16 年	2004年	2月、18代市長山本捷雄氏就任 4月、江の島サムエル・コッキング苑入苑者50万人達成 新江ノ島水族館オープン 六会市民センター石川分館・石川コミュニティセンターオープン 10月、湘南台子育て支援センターオープン
平成 17 年	2005年	2月、「安心すこやか市民債」発行 3月、国内初のノンステップ連節バス運行開始（湘南台駅～慶応大学間） 4月、市立中学校二学期制を全校で開始 公共施設（各市民センター・公民館等）に自動体外式除細動器（AED）配備 5月、江の島サムエル・コッキング苑入苑者100万人達成 10月、第18回国勢調査実施（396,014人） 11月、市制施行65周年記念公演藤沢市民オペラ「トゥーランドット（ベリオ版）」上演
平成 18 年	2006年	3月、年度末・年度初めの土・日曜住民異動手続き窓口開設 4月、藤沢市保健所・南保健センターオープン 5月、全国初、クレジットカードによる軽自動車税納付の実証研究を実施 江の島岩屋入洞者300万人達成 7月、盆踊りイベント「藤沢宿・遊行の盆」開催 11月、渡内地区で住居表示実施 明治市民センター・公民館改築オープン 12月、市民病院救命救急センター業務開始
平成 19 年	2007年	3月、第1回湘南国際マラソン開催 4月、人口40万人超える ごみ戸別収集実施 藤沢市観光センターリニューアルオープン 6月、第1、3土曜日届出窓口開設 8月、江の島サムエル・コッキング苑入苑者200万人達成 10月、ごみ処理有料化実施 12月、印鑑登録証カード化 藤沢駅周辺、路上喫煙禁止区域指定
平成 20 年	2008年	2月、19代市長海老根靖典氏就任 4月、藤沢市学校教育相談センターオープン 7月、善行つどいの広場オープン 12月、安全・安心ステーション（市民交番）を鶴沼地区に設置
平成 21 年	2009年	1月、コカ・コーラセントラルジャパン（株）と災害時の飲料水提供などの地域貢献協定締結 市のマスコットキャラクター「カワセミくん」誕生 2月、公用車として電気自動車導入 4月、小児医療費の助成対象を小学校6年生まで拡大 市役所新館に「ふじさわ発電ゲート」を設置 5月、湘南C-Xの一部まちびらき 6月、35年ぶり江の島～伊豆大島間チャーター船を運行 9月、地産地消条例を制定 10月、「地域経営会議」全地区でスタート 11月、藤沢市長のマニフェストが「第4回マニフェスト大賞」において首長部門のグランプリ受賞
平成 22 年	2010年	1月、市役所本館ロータリーに電気自動車用急速充電器を設置 4月、湘南台大橋完成 10月、第19回国勢調査実施（409,657人） 11月、「湘南藤沢グル麺コンテスト」開催 12月、大型農産物直売所「わいわい市藤沢店」オープン
平成 23 年	2011年	2月、セブン-イレブンで住民票の写しと印鑑登録証明書の交付開始 武田薬品工業湘南研究所が完成 3月、東日本大震災発生（11日） 4月、「藤沢市新総合計画」スタート 被災地を総合的に支援する「藤沢市自立型復興支援プラン」を策定 6月、市議会史上初となる「百条委員会設置」を可決 8月、51年ぶりに普通交付税交付団体に 10月、津波避難情報マップを作製、南部地域世帯に配布 平和の灯モニュメント完成 広島「灯」を藤沢に継承 11月、湘南C-X内に商業施設「テラスモール湘南」オープン
平成 24 年	2012年	2月、20代市長鈴木恒夫氏就任 4月、人口が県内4位に 藤沢市地方卸売市場民営化 7月、湘南パスポートセンター開設 9月、ロンドン五輪銅メダルを獲得した立石諒選手に市民栄誉賞を贈呈 12月、「藤沢市における法令の遵守に関する条例」施行

年 号	西 暦	事 項
平成 25 年	2013年	2月、「藤沢市議会基本条例」制定 4月、全地区で郷土づくり推進会議スタート 2市1町が支援する湘南看護専門学校開校 5月、「ふじさわ元気バザール」開催 7月、「桔梗屋」、「旧三觜八郎右衛門家住宅」が国登録有形文化財に登録 片瀬西 浜・鶴沼海水浴場で音楽放送の自主規制 8月、24時間型の救急ワークステーション 開設 11月、優れた職人として「藤沢マイスター」に3人が初認定
平成 26 年	2014年	3月、藤沢商工会館ミナパークが完成 4月、「市政運営の総合指針2016」がスタート 6月、日本非核宣言自治体協議会の設立30周年記念大会を本市で開催 9月、江の島 岩屋の入洞者が500万人を超える 10月、市役所本庁舎の取り壊し工事が始まる 11月、人口42万人を超える
平成 27 年	2015年	3月、さがみ縦貫道路が全線開通 4月、「藤沢市子どもをいじめから守る条例」を 施行 6月、障がい者雇用の促進を目的に「JOBチャレふじさわ」始動 江の島 が東京2020オリンピック競技大会セーリング競技会場に決定 10月、第20回国勢調 査実施される（人口423,894人） マクドナルドと市がマルチパートナーシップ協 定締結 11月、多摩大学・市観光協会・市が観光連携等協力協定締結 12月、原動 機付自転車のご当地ナンバープレートの交付開始
平成 28 年	2016年	2月、21代市長鈴木恒夫氏就任 3月、六会市民センター・公民館新庁舎完成 4月、 コミュニティーFM局「レディオ湘南」が開局20周年 ふじさわ宿泊交流館開館 5月、 市公式マスコットキャラクター「ふじキュン♡」登場 「ふじさわ教育大綱」策定 7月、2015年の本市の観光客数が過去最大の1,833万人に上る 藤澤浮世絵館開館 8月、藤沢駅北口エスカレーター完成 10月、本市で開催の「夜景サミット2016」 で、江の島シーキャンドルが「夜の美しい灯台ランキング」1位に選ばれる 12月、 辻堂駅開設100年、駅の発車メロディが「浜辺の歌」となる
平成 29 年	2017年	2月、市内14駅周辺を路上喫煙禁止区域に指定 3月、「まちキュンご当地婚姻届」 配信開始 藤沢駅北口歩行者道の愛称がサンパレットに決定 4月、北消防署遠藤 出張所完成 教育応援基金を創設し市独自の給付型奨学金制度をスタート 「いす ゞプラザ」オープン 5月、江の島岩屋が来場者600万人達成 藤沢商工会議所が創 立70周年 国内で初めてJOCオリンピック支援自販機が市内に設置 6月、「ふじさ わセーリングフェスタ2017in江の島」開催 8月、ふるさと納税制度の返礼品贈呈を 開始 9月、新江ノ島水族館が来場者2,000万人達成 10月、故船村徹氏（作曲家） に名誉市民の称号を贈呈 12月 市役所本庁舎の落成式・内覧会を開催
平成 30 年	2018年	1月、市役所本庁舎の供用開始 4月、「2020応援団 藤沢ビッグウェーブ」始動 人口43万人を超える 5月、関東圏初の国家戦略特区を活用した「農家レストラン いぶき」オープン 7月、市民病院の再整備完了 9月、セーリングワールドカップ シリーズ江の島大会2018開催 10月、江の島岩屋25周年 11月、柄沢特定土地画 整理事業完了 鶴沼海岸公園スケートパークに国内最大級のコースがオープン 12月、 湘南モノレール「湘南江の島駅」改修工事完了
平成 31 年 令和 元年	2019年	3月、江島神社の「木造弁才天坐像」が国の重要文化財に 4月、藤沢公民館・労働 会館等複合施設（愛称：Fプレイス）の供用開始 7月、南市民図書館・市民ギャ ラリーがODAKYU湘南GATE6階に移設 8月、江の島大橋が3車線化される 10月、本 市遠藤在住の吉野彰氏がノーベル化学賞受賞決定 12月、藤沢駅北口ペDESTリア ンデッキ（サンパール広場）がリニューアルオープン
令 和 2 年	2020年	1月、市役所分庁舎の供用開始 吉野彰氏名誉市民に 2月、22代市長鈴木恒夫氏就 任 3月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため市立小・中学校・特別支援学校 が臨時休校 4月、県に緊急事態宣言発令 8月、藤沢駅北口交通広場リニューアル 10月、第21回国勢調査が実施される（人口436,905人）
令 和 3 年	2021年	2月、藤沢市気候非常事態宣言を表明 3月、秋葉台公園にインクルーシブな遊具を 設置 4月、認可保育所などの待機児童がゼロに 7月、東京2020オリンピックセー リング競技が江の島で開催 8月、藤沢市の人口が44万人に 東京2020オリンピッ クが閉幕、大会を通じ本市ゆかりの4選手がメダルを獲得 辻堂市民センター公民館 新庁舎の供用を開始 10月、藤沢市スポーツ都市宣言を制定

年 号	西 暦	事 項
令和4年	2022年	3月、湘南台駅地下アートスクエアがオープン 藤沢駅北口地下通路がリニューアルオープン 4月、遠距離送・排水システム車を市が全国で初めて導入 7月、コロナ禍における藤沢独自の感染対策ルールを定め、海水浴場をオープン 上藤が谷公園、遠藤笹窪谷公園が開園 8月、ふじキュンの遊具を本庁舎サンライズ広場に設置 9月、市独自のふじさわSDGsロゴマークが決定 藤沢・茅ヶ崎・寒川をホームタウンとするプロバスケットボールチーム湘南ユナイテッドBCがB3リーグに初参戦 11月、ねんりんピックかながわ2022が市内でも開催 江の島サムエル・コッキング苑がリニューアルオープン 12月、秋葉台公園にスケートボード広場がオープン
令和5年	2023年	3月、市役所本庁舎5階市民ラウンジがリニューアル 4月、江の島サムエル・コッキング苑&江の島シーキャンドルが20周年、江の島岩屋が30周年を迎え、記念事業を開催 5月、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行 7月、4年ぶりに感染防止の制限がなく海水浴場を開設 9月、藤沢市民まつりが4年ぶりに本格開催 10月、藤沢コンタクトセンターを開設
令和6年	2024年	1月、江の島岩屋の入洞者が800万人を突破 3月、Fプレイスの隣接地に吉野町公園が開園 4月、小児医療費の助成対象年齢を拡大 7月、文書館が開館50周年を迎え、パネル展など開催 8月、パリオリンピックで本市ゆかりの3選手がメダルを獲得 10月、遠藤笹窪谷公園が生物多様性の取り組みを評価され「国土交通大臣賞」初受賞 11月、「湘南の宝石」が「International Illumination Award」イルミネーションイベント部門優秀ストーリー賞第1位を受賞
令和7年	2025年	3月、海老名市とパートナーシップ宣誓制度に係る自治体間連携に関する協定を締結 5月、トンボロを歩いて江の島に渡れるよう常設階段が整備される 8月、藤沢生まれのブドウ「藤稔」が「かながわブランド」に登録 9月、リサイクルプラザ藤沢で火災発生 10月、第22回国勢調査が実施される 江の島岩屋の入洞者数が900万人を達成 11月、日本夜景サミットが藤沢市で開催され、「湘南の宝石」が日本三大イルミネーションに初認定

資料：文書統計課 「藤沢－わがまちのあゆみ」（藤沢市文書館）、「市政の概要」（藤沢市議会事務局）  
「わたしの藤沢」、「広報ふじさわ」（藤沢市広報シティプロモーション課）